

令和6年8月1日

立教187年

8月号  
第623号



発行所

天理教宇仁大教会  
〒677-0015 西脇市西脇770-4  
電話 0795(22)4066番  
FAX 0795(22)4072番  
unigrandchurch@yahoo.co.jp

## R187 さんさいの里キャンプ (少年会主催)

日時：立教187年8月22日(木)～23日(金)

場所：さんさいの里 定員：20名

対象：小学校4年生以上の教会布教所子弟

今年の夏も「さんさいの里」でキャンプを通して  
素敵な夏の思い出を作りませんか？

詳しくは、各教会配布の参加要項  
または、右記のQRコードから  
アクセスしてご確認下さい。



### 散歩道

▼あちこちから同じ野菜をたくさん頂いた。勿体ない話だが「もうそれは結構です」と心の中で思ってしまった。つい先日まで「高い高い」とぼやきながら買っていたジャガイモやキュウリ等が今はゴロゴロある。どの野菜も一年中均等に出来ないものかと勝手なことを思ってしまった。▼当たり前のことだが、一つの野菜を育てるにも、畑を耕し、種を蒔き、水や肥しをやり、芽かきをしたり虫を駆除したりと順番にこなさなければ旬が来ても収穫できない。一足飛びに種を蒔いたら直ぐに花が咲いて実が付くということには有り得ない。▼何でもすぐに結果を求めたり、無理に伸ばそうとすれば、結局何も得られない。順序を守り、じっくりと旬を待つ…それが丹精だと改めて思う。飢餓で苦しんでいる国の人々の事を思い、旬のものを毎日工夫しながら喜んで頂きたいと思う。おさしづに「いつも春と思うから間違う」とお示しいただく。

## 一 理 塚

「ありがとう。」と「Thank you」「おはよう」と「Good morning」「はじめまして」と「How do you do?」この何気なく毎日使われる挨拶の表現の中に日本語と英語の基本的、根本的、決定的な大きな違いがあるという。こんな大切なことを日本の学校では国語の時間にも英語の時間にも教えてくれない。この違いがはっきり分かって意識できると、英語力もついてくると、『日本語が世界を平和にするこれだけの理由』の著者金谷武洋氏は断言する。つまり「英語の文には人間がいるのに日本語の文には出てこない」なぜなら日本語の方は、そこにいる話手と聞き手の二人は同じ方向を向いて「視線を溶け合わせ」ながら、一緒に感動、共感しているだけなので文には人間が出てくる必要がない。一方英語では聞き手の「あなた(YOU)」だけでなく、話し手の「私(I)」も昔はいたが省略されてなくなり、動詞の「thank(感謝する)」相手である聞き手、つまり「YOU」はちゃんと残ったのが現代英語の「Thank you」だそう

である。日本語と英語の大きな違いは、一言で言えば、日本語は共感、共感の言葉、英語は自己主張と対立の言葉と結論づけている。

毎年何百という言語が、英語、ロシア語、中国語に吸収されて地上から消えていく中で日本語は最も平和志向の、ロマンチックで幸せな美しい言葉で、進むべき道を見失って迷走する世界を救える思想が含まれており、世界の人々から愛され滅びることはないと著者は絶賛している。天理教がこのような平和志向の文化を持つ日本で生まれたのは理に適っていると思う。原典である「おふでさき」も日本古来の和歌形式で教えを説かれている。教祖伝逸話編 一四七 本当のたすかり(抜粋)に、大和国倉橋村の山本与平妻いさ(註、当時四十才)は、明治十五年、年来の足の悩みをすっきり御守護頂いた。そのあと手が少しふるえて、なかなかよくなるので、教祖にお目にかかって、そのふるえる手を出して、「お息をかけて頂きます。どうぞいます。」と願った。教祖は、「息をかけるは、いと易い事やが、あんたは、足を救けて頂いたのやから、手の少しふるえるぐらいは、何も差し支えはしない。

すっきり救ってもらうよりは、少しぐらい残っている方が前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりやで。人、皆、すっきり救われる事ばかり願うが、真実救かる理が大事やで」と、おふでさき十七号全冊をお貸し下された。この時以来、手のふるえは、一寸も苦にならないようになった。そしておふでさきを、生涯、いつも読ませて頂いていた。そして、誰を見ても、熱心ににをいをかけさせて頂き、八十九才まで長生きさせて頂いた。とある。私たち人間は年齢を重ねるにつれ、多かれ少なかれ身体に悩みが出てくる。いくら信仰をしていても、あれこれと不足が起きてくる。

みかぐらうた六下り目にあるように  
七ッ なんぼしんじんしたとて  
こゝろえちがいならんぞへ  
八ッ やっぱりしんじんせにゃならん  
こゝろえちがいはでなほしや  
心得ちがいは八つのほり  
心遣いであると思う。心得違いないように毎日おふでさきを拝読させて頂く。そこに、不足はなくなり、身上も苦にならなくなる。

元バークレー神学連合大学院生 深谷耕治氏は、日常生活においても、我々は沈黙が言葉以上の意味や感情を相手に伝える場合があることを知っている。和歌体の形式をとる「おふでさき」は沈黙も含めてある種の感情的・感覚的な言葉に近く、読み手が解釈できる大きな空間を用意している。と述べている。(Glocal Tenri 4 Vol.13 No.6 June 2012 「おふでさき」を読むということ) それでも不足がなくならないならば、先ごろ道友社より「謹写 おふでさき」が販売されている。書き写すことによって、より深く親神様の世界平和への願いを感じ取ることが出来るのでは。

## 布教推進講話

<日時> 8月24日(土)  
大教会祭典後

<講師> 平野 晋 先生  
西大寺分教会長  
布教の家岡山寮副寮長

### 「たちばな会」が団参

去る六月十二日(水)、鍛冶屋分教会から「たちばな会」の皆さんがおぢばがえりをされた。これは鍛冶屋所属の藤原テルミさん(八十一才)の小学校時代の同級生グループ。

初めての方々、お節会や鍛冶屋の団参に参加したことがある方など総勢十五名が宇仁バスで帰られた。

一行は、東礼拝場で兵庫中央分教会笹倉会長から天理教についてのお話を聞き、教組殿、祖霊殿と参拝された。

参加された方からは、「平日の人混みのない静かな中で見る神殿は、とても立派で改めて驚いた。」「聞かせて頂いた天理教の教えは、とても分かりやすくて心に入ったので、ぜひ今度は(奥様と)二人で来たい。」「鍛冶屋の団参があるときは、また一緒に参加させてほしい。」「など、とても良かったという声をたくさん頂いた。

### あやめ会

#### おぢばがえり団参

六月二十九日(土)あやめ会主催で団参をさせて頂き、こども一七名、大人一〇名、計二七名で賑やかにおぢばへ帰らせて頂きました。梅雨でお天気が心配でしたが、前日の雨が嘘のように梅雨の晴れ間のご守護を頂き、晴天の中全員笑顔で過ごすことができました。会員が未信仰の方にも声をかけ、家族が参加してくれることになり本当にありがたかったです。お誘いする時は「なんて声をかけよう…」と不安もありましたが、いざチラシを見せてお誘いすると「楽しそうだね!こども達にも相談してみるね」とこちらが思っていたよりも快く返事をしてくれました。子どもたちも神殿案内を真剣に聞いてくれて、おつとも一手一つにつとめ、初めて参加された方も「何畳あるの?」と神殿の広さに驚いて興味深いいろいろと質問してくれていました。お昼からはお楽しみみの天王寺動物園へ!

当日は全員でバスのレクチャーや案内などを役割分担し、年齢の違う子ども達を飽きさせないためにどうすればよいかなど会員同士で相談しあえ、とてもよい経験となりました。初めておぢば帰りされた方も「とても楽しかった!」と、こども達も初めて出会ったと思えないくらい仲良くなり素晴らしい一日を過ごさせて頂きました。お天気がご守護や人のご守護などたくさんのご守護をいただき、感謝いっぱい笑顔いっぱいのおぢば帰りになりました!!

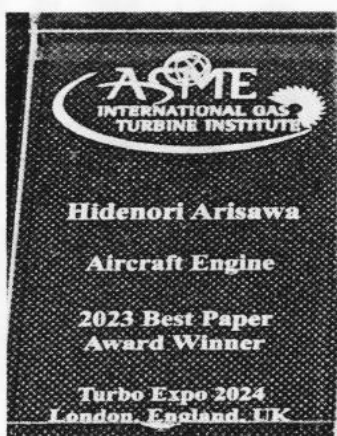


### 有澤秀則氏

#### 航空エンジン部門で 最優秀論文賞受賞

この度、豊原分教会役員で大教会布教部員でもある有澤秀則氏が、航空エンジン部門では世界的権威であるBPA(最優秀論文賞)を受賞され、ロンドンでの受賞式に臨まれました。

詳細については、天理時報7月24日号に2ページ見開きで詳しく掲載されていますので、是非ご覧ください。



『教祖と歩む三年千日』  
教会布教実働報告

◎小野町分教会会場

布教日 六月八日

参加者数 三名

会場 教会周辺

内容 ポスティング

所感 教会周辺で天理いきいき通信を配らせて頂きました。

この日は、田植えの準備等で外におられる方も多く、「毎月楽しみにしています」「子どもさん多くなったなあ」「おじいちゃん元気か？」など多くの方に声をかけて頂きました続けることが大事だなと思います。



教祖と共に歩む三年千日  
大教会布教実働日

『教祖のお供に歩かせて頂く日』

毎月15日 午後1時30分 大教会神殿集合  
戸別訪問・振り返り  
午後三時三十分解散

『親神様の神名を世界へ流す日』

毎月24日 午後1時30分頃 大教会神殿集合  
神名流し 午後二時 終了

『宇仁会報に見る大教会史』 第90回

◎平成という時代

(3)

平成6年には、『教組百十年祭ようばく躍進の集い地方大会』が、全国各地で開催された。

宇仁に係する所では、三月に丹波、加西、八千代、神崎。四月に入ると、まず北海道大会が剣淵分教会で、続いて三木・小野大会が中河合分教会、更に中町大会が鍛冶屋分教会、西脇・加東大会が宇仁大教会、神戸大会が兵庫中央分教会、黒田庄比延大会が黒田庄分教会、加美町大会が豊原分教会と、それぞれ宇仁部内の教会を会場に実施されている。

また宇仁布教部では、それは別に『教会長夫妻研修会』を開催し、更なる教会内容の充実を目指している。が、それでも物足りず、九月には改めて『教会長・後継者夫妻研修会』を実施。約八十名が熱心に受講したと会報に記されている。

ただ残念なことに、この時のことは私を含め、さほど記憶に残っていない人が多い。なぜなら、平成七年初頭に起こった阪神淡路大震災の衝撃が、あまりにも大きかったためである。

年頭号の宇仁会報第二六八号は、大教会長の挨拶に始まり、教組百十年祭年祭活動仕上げの年として奮起を促されている。布教部では、「年祭活動推進部・心定め完遂丹精部・おつとめ奉仕人充実丹精部」にをいがけおたすけ丹精部・団参計画推進丹精部」と五つの新部門を設置し、この一年に懸ける思いが伝わってくる。

しかし、二月号は…宇仁会報の印刷所までもが被災した…。編集後記には、休刊せざるを得ないと一時は判断したが、被災を免れた別の印刷所が「こんな時なら」と無理を聞いて下さり、発行にこぎつけたと切々たる思いが記されている。

おぢば通信

六月のうごき

◎をさづけの理拝戴

豊原 寺尾 美貴

曾我井 足立 琴音

◎六月帰参者 一九二名

(詰所調べ)

8月行事予定表

6日 青年会例会

9日 婦人会例会

15日 布教実働日

19日 少年会例会

22日～23日 少年会

「さんさいの里キャンプ」

24日 大教会月次祭

午前10時30分執行

布教推進講話・神名流し

26日 本部月次祭

午前9時執行

婦人会より

◇大教会炊事当番

8月 神福A

9月 直 属

10月 神福B

よろしく

お願いします